



五卷五
甲

~ 5
4900
2



門 5
疏 4900
卷 2



蔣碩儒署二大字蓋由有所見也麥仙氏
縮地跋陟崑崙藍田其獲之名山大澤之
間也拾掇捃摭或掄之燕石之中或攻卞
璞赫連城之美或有拈龍鬚而探之額下
者居諸盈昃遂現一幃縮地聯玉帖他日
叟將種之玉田而炊玉豈可不謂深撈之
功也乎 友人伏水梅軒北村惇



早稻田大學圖書館
昭和27.6.30
藏書



大佛殿

此寺の庭乃日影も亦月さす
 越さすし門を本権乃はつる
 するやうそまきやあき
 藤原の軒のすまのや
 ぬれあまのほのほ
 たりほのほのほ
 けいけいけい
 けいけいけい
 けいけいけい
 けいけいけい

藤山



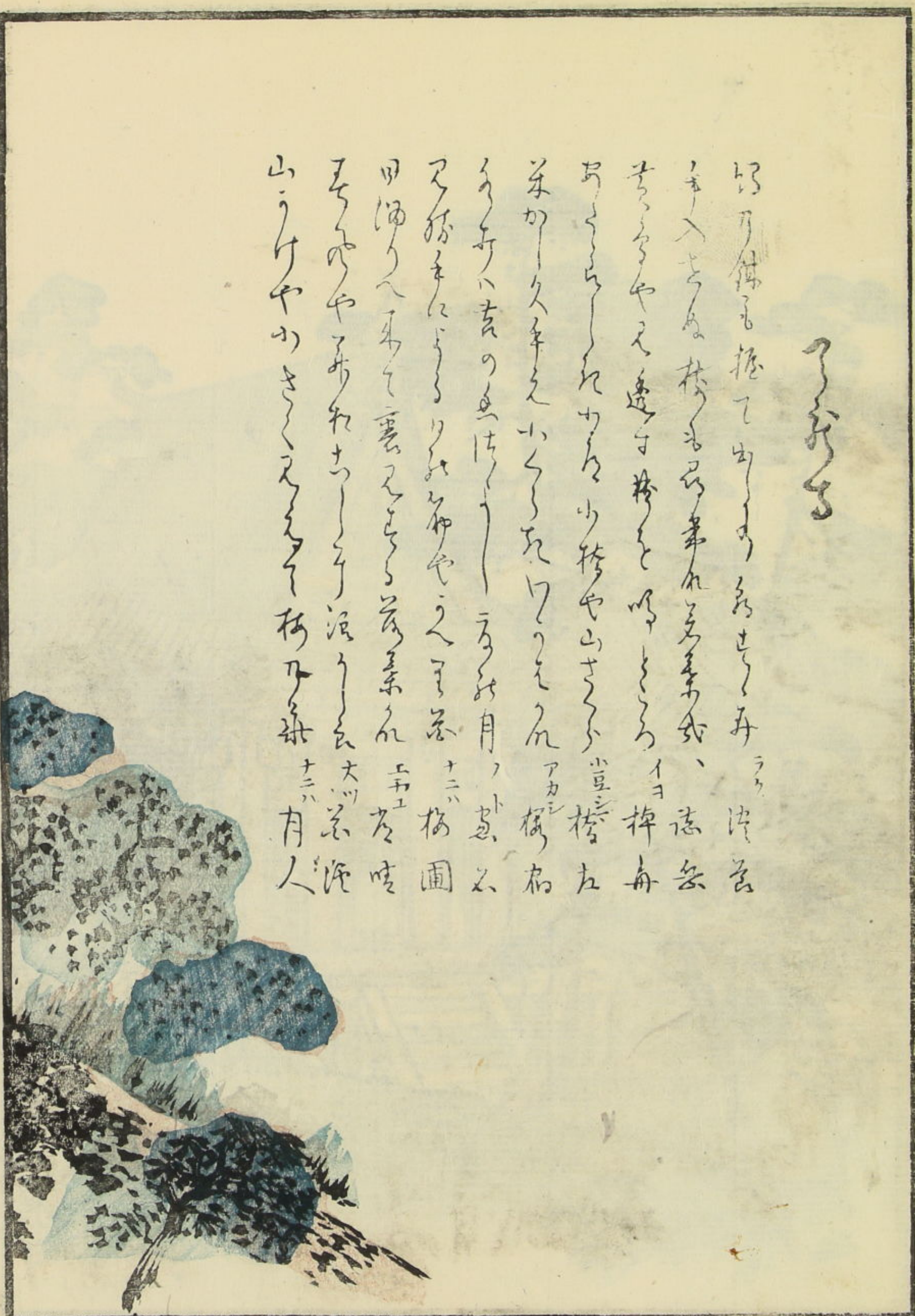


梁溪祐親



了了了

以可憐子極て出しあり各々々々
年入さるる林も各々々々々々々々
昔々々々々々々々々々々々々々々々
阿々々々々々々々々々々々々々々々
茶か久々々々々々々々々々々々々
くくくくくくくくくくくくくく
又勝々々々々々々々々々々々々々々
田畑くくくくくくくくくくくく
五々々々々々々々々々々々々々々々
山々々々々々々々々々々々々々々々



吉田

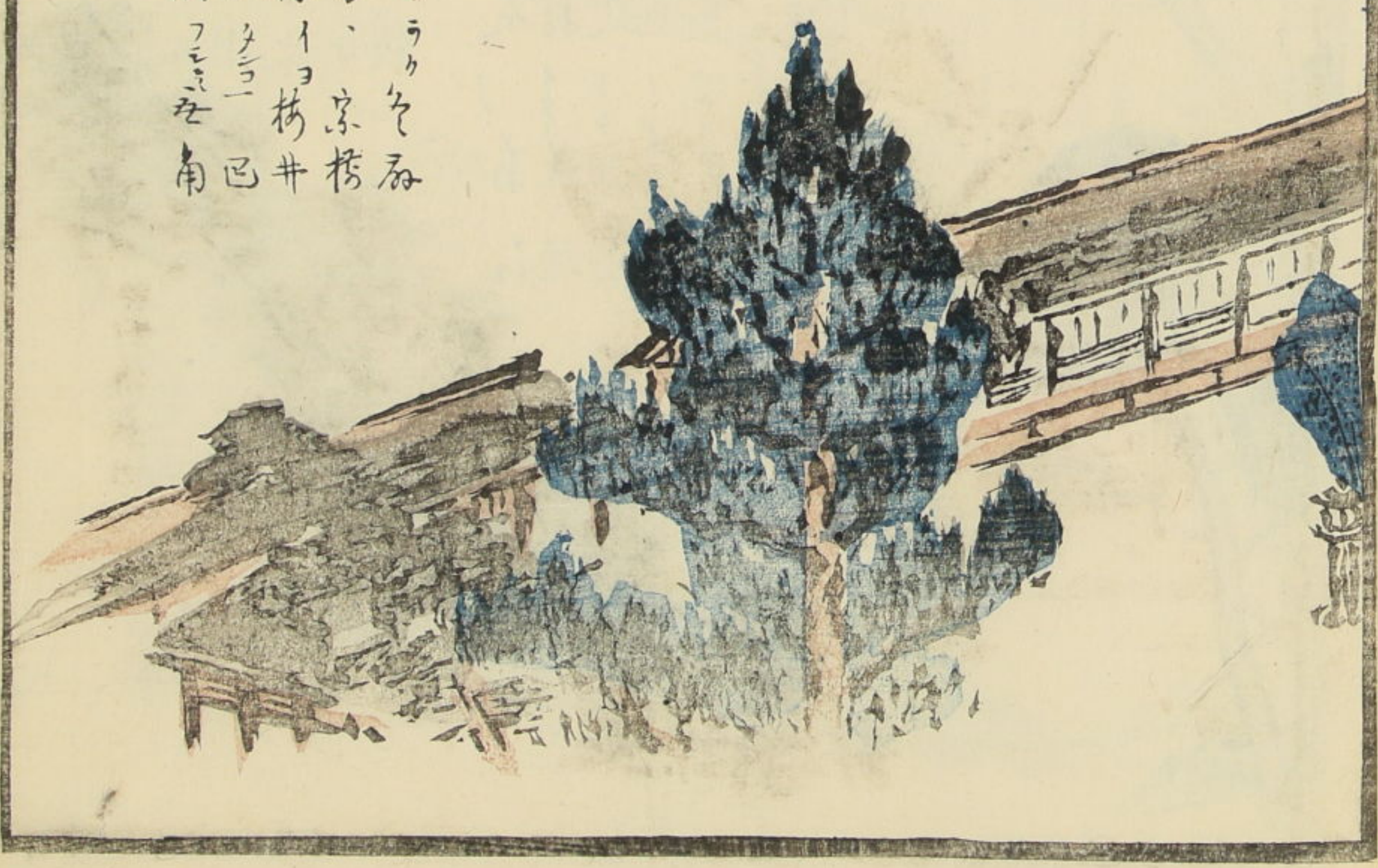
松のうらやまのしづみ 吉田
 社内を巡るの事 五十二
 めいりやきりてのまはり 茶
 さるるるるるるるる 林 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一



狩野権殿助次



龍のうらやまのしづみ 吉田
 社内を巡るの事 五十二
 めいりやきりてのまはり 茶
 さるるるるるるるる 林 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一



門のうらやまのしづみ 吉田
 社内を巡るの事 五十二
 めいりやきりてのまはり 茶
 さるるるるるるるる 林 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一
 ろろろろろろろろろろ 三十一



つらふの森 元礼

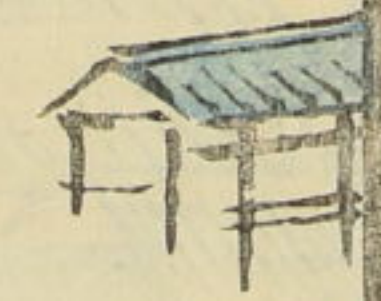
喜みききくふきくくきくきく
 入内し物きくきくきくきく
 月ひあきくきくきくきく
 月ひあきくきくきくきく
 まくあやんきくきくきく

くらきくきくきくきく
 くらきくきくきくきく
 くらきくきくきくきく
 くらきくきくきくきく
 くらきくきくきくきく
 くらきくきくきくきく
 くらきくきくきくきく

花巻



五月三十一日
日の白くもくく空をやちと揺
水上の波ねるあはれやうさるも
了る所もあふくや月夜月
月あててさうあはれあはれ
岸のあはれあはれあはれあはれ
橋のあはれあはれあはれあはれ
松のあはれあはれあはれあはれ



後の
梅昇

海
南

魚
可
大
海
魚

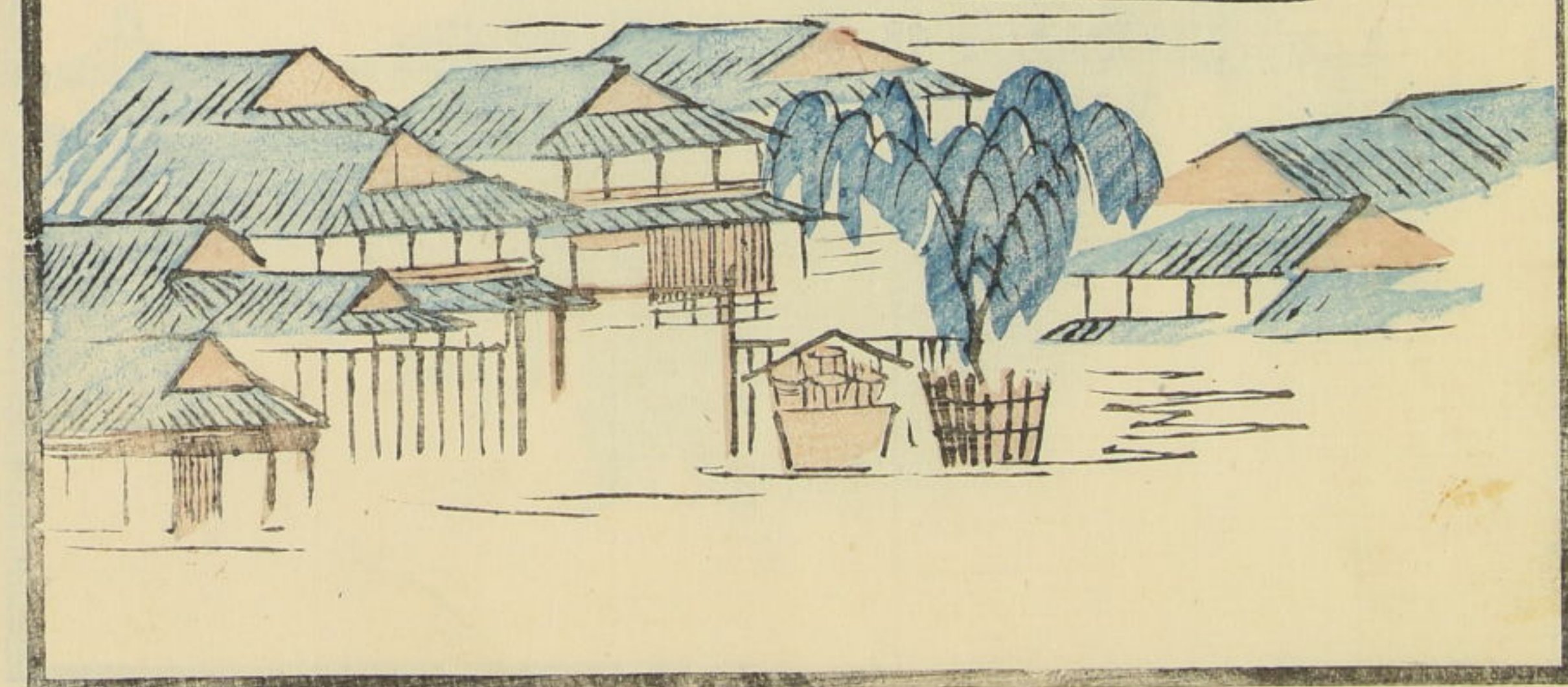
高京

高京のそとをききんうわらふ
 くらりうらら月夜の柳を
 体なきやきかきりり柳
 女中もあつとあつとあつと柳
 籠有やあつとあつとあつと柳

エト 抱家
 ナハ 華一
 アツキ 柳
 アツキ 柳
 アツキ 柳

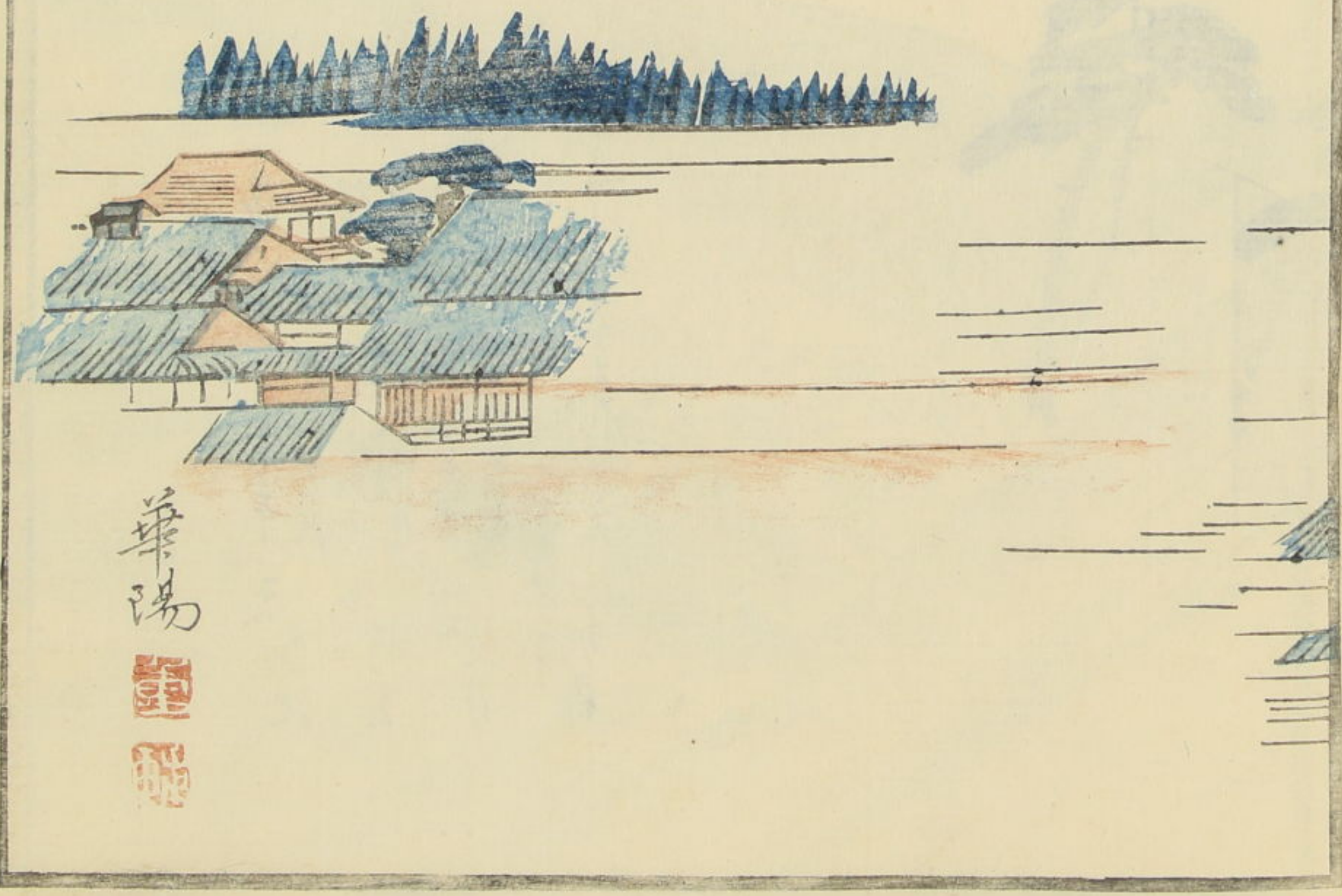
高京のそとをききんうわらふ
 くらりうらら月夜の柳を
 体なきやきかきりり柳
 女中もあつとあつとあつと柳
 籠有やあつとあつとあつと柳

ナハ 華一
 ナハ 華一
 ナハ 華一
 ナハ 華一
 ナハ 華一



高京のそとをききんうわらふ
 くらりうらら月夜の柳を
 体なきやきかきりり柳
 女中もあつとあつとあつと柳
 籠有やあつとあつとあつと柳

ナハ 華一
 ナハ 華一
 ナハ 華一
 ナハ 華一
 ナハ 華一



華陽
 華陽
 華陽



西大馬

吾の心は...
 月鏡橋...
 甘身...
 ラク...
 菜峰...
 ガリマ...
 笠後...
 五甲...
 九鼻...
 フ介...
 二語...



下十

下十

下十

嵐山

水乃 蒼々 月乃 皎皎
 竹乃 簌簌 梅乃 芬芬
 柳乃 依依 桃乃 灼灼
 蘭乃 馥馥 荷乃 翠翠
 菊乃 芳芳 松乃 苍苍
 柏乃 森森 楓乃 红红
 櫻乃 白白 桃乃 粉粉
 梨乃 黄黄 杏乃 赤赤
 榴乃 火火 桐乃 青青
 椿乃 紫紫 棗乃 紫紫
 橘乃 黄黄 柚乃 绿绿
 柿乃 橙橙 菱乃 白白
 藕乃 白白 蓮乃 白白
 荷乃 白白 蓼乃 白白
 葵乃 白白 菜乃 白白
 豆乃 白白 麥乃 白白
 稻乃 白白 黍乃 白白
 稷乃 白白 粱乃 白白
 粟乃 白白 穀乃 白白
 麥乃 白白 蕡乃 白白
 苽乃 白白 華乃 白白
 荊乃 白白 榛乃 白白
 檉乃 白白 柳乃 白白
 榆乃 白白 桑乃 白白
 柘乃 白白 柞乃 白白
 櫟乃 白白 槐乃 白白
 桐乃 白白 柏乃 白白
 檜乃 白白 松乃 白白
 竹乃 白白 藤乃 白白
 葛乃 白白 藟乃 白白
 藑乃 白白 桑乃 白白
 榆乃 白白 柳乃 白白
 榆乃 白白 柳乃 白白
 新しし山乃 冷



亮秀
 (A red square seal impression below the signature)



春泉
[Red seal]

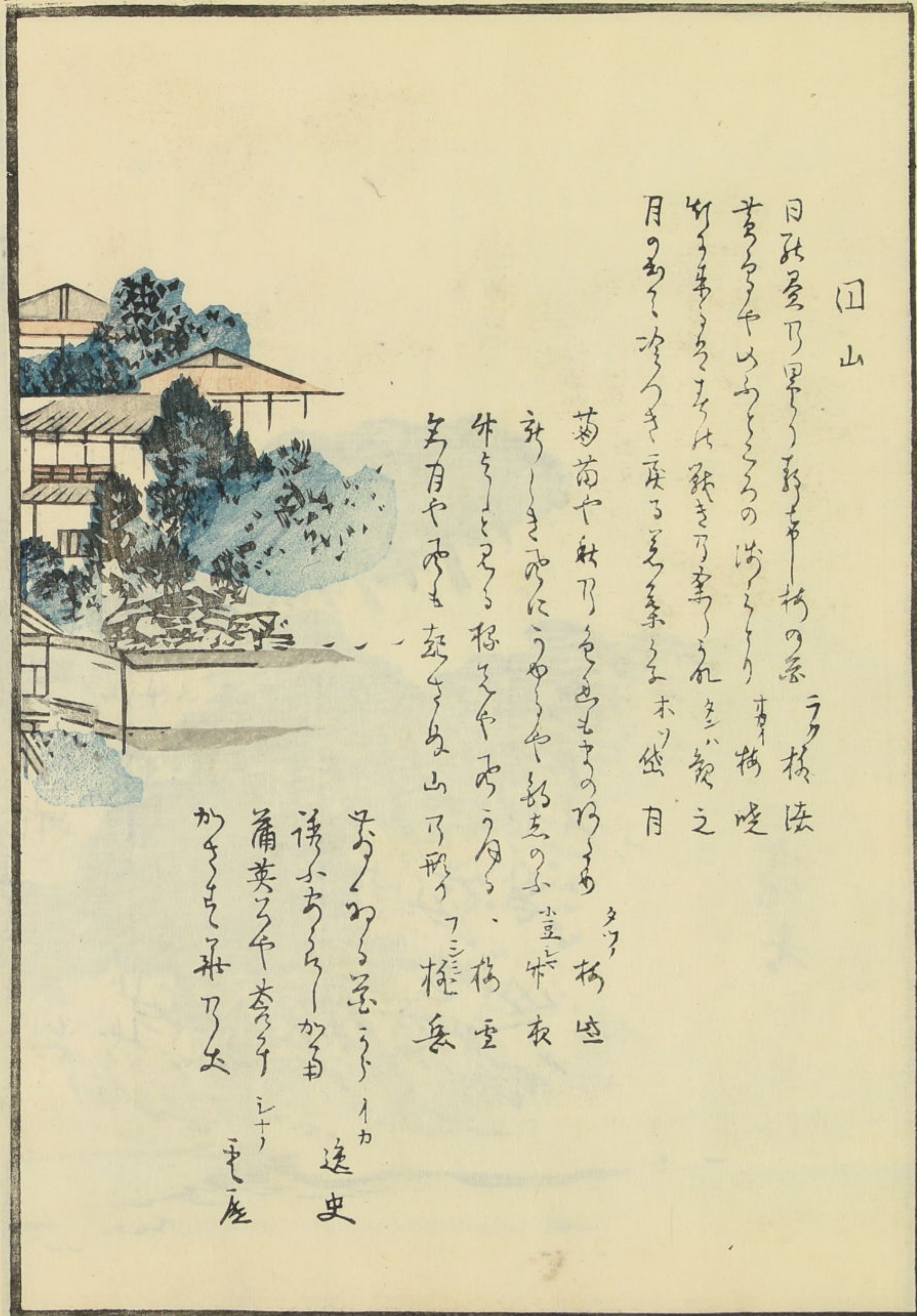
一風

あき
せん
つゆの
かき

いよ
かき

あき
せん
つゆの
かき

いよ
かき



山

日影を乃早し新市松の音
昔よりやいふくまの海より
竹もあつたは秋きりきり
月のおく、ゆくきやふるまふ

菊苗や秋乃もあつた
新しきおのひやうゆ
月よりあつたは秋きりきり
月のおく、ゆくきやふるまふ

あき
せん
つゆの
かき

いよ
かき

あき
せん
つゆの
かき

いよ
かき

あき
せん
つゆの
かき

いよ
かき



友直

とく五社記

茶の象有りては清く懐く
 渡りては清く懐く懐く
 人倫は親らんとや夕々
 石をくんとおとす
 穢しするを都はるる

茶の象有りては清く懐く
 渡りては清く懐く懐く
 人倫は親らんとや夕々
 石をくんとおとす
 穢しするを都はるる

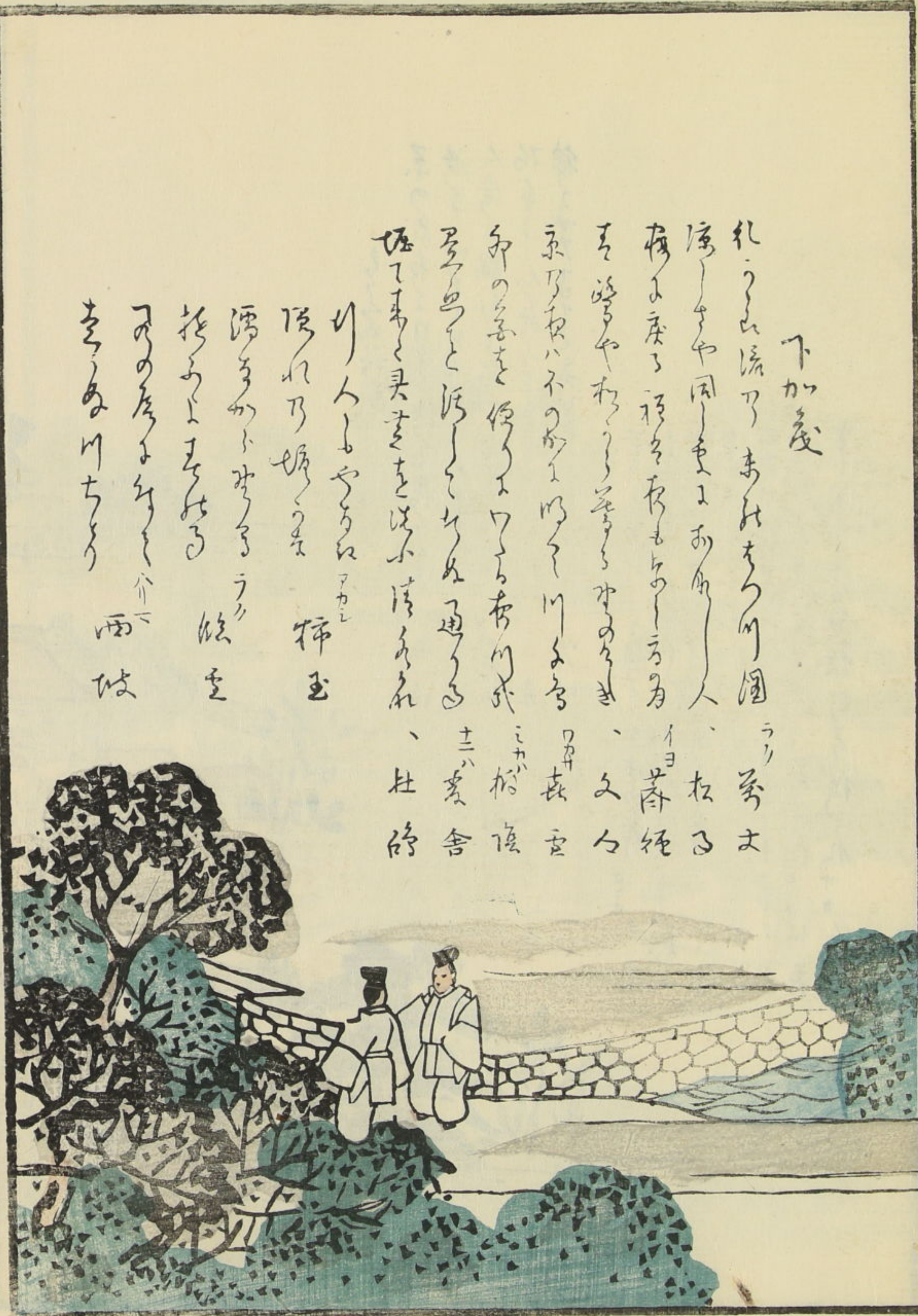


栄雅

下加茂

礼ひ流乃其れま川国
 河川同重しあふ人、
 極よ度了移多夜もあし方
 其峰や初々々々々々々々々々
 東乃板ハ不の初々々川は
 舟の急を傍る下川を舟
 其の急と流るる下川を舟
 堤より其急を流る下川を舟
 川人をもやうに
 深乃初々々々々々々々々々
 其急よま其急よ
 下川の急よま其急よ
 其急よま其急よ
 其急よま其急よ

柳玉
 傾け乃板乃重
 深乃初々々々々々々々々々
 其急よま其急よ
 下川の急よま其急よ
 其急よま其急よ






双林西行尾

岸信乃宋阿蘇^ラ 詩^シ 徒^ト
 乃^ナ^リ又^マ一^ヒに^シて^ル
 相^アの^ノ弟^ニを^シて^ル未^ダも^シて^ル
 一^ヒに^シて^ル日^ノの^ト事^ヲを^シ
 宋^ノ阿^ノ蘇^ノ子^ヲを^シて^ル其^ノの^ト
 可^ク文^トを^シ
 其^ノの^ト文^トを^シて^ル其^ノの^ト
 未^ダも^シて^ル其^ノの^ト事^ヲを^シ
 宋^ノ阿^ノ蘇^ノ子^ヲを^シて^ル其^ノの^ト
 可^ク文^トを^シて^ル其^ノの^ト
 其^ノの^ト文^トを^シて^ル其^ノの^ト
 未^ダも^シて^ル其^ノの^ト事^ヲを^シ
 宋^ノ阿^ノ蘇^ノ子^ヲを^シて^ル其^ノの^ト

宋阿蘇や阿蘇も工^ト
 流^ルる^ルる^ルる^ルる^ルる^ルる^ル
 夕^ノノ^ト事^ヲを^シて^ル其^ノの^ト
 血^ノノ^ト事^ヲを^シて^ル其^ノの^ト
 夕^ノノ^ト事^ヲを^シて^ル其^ノの^ト
 血^ノノ^ト事^ヲを^シて^ル其^ノの^ト
 夕^ノノ^ト事^ヲを^シて^ル其^ノの^ト
 血^ノノ^ト事^ヲを^シて^ル其^ノの^ト
 夕^ノノ^ト事^ヲを^シて^ル其^ノの^ト
 血^ノノ^ト事^ヲを^シて^ル其^ノの^ト

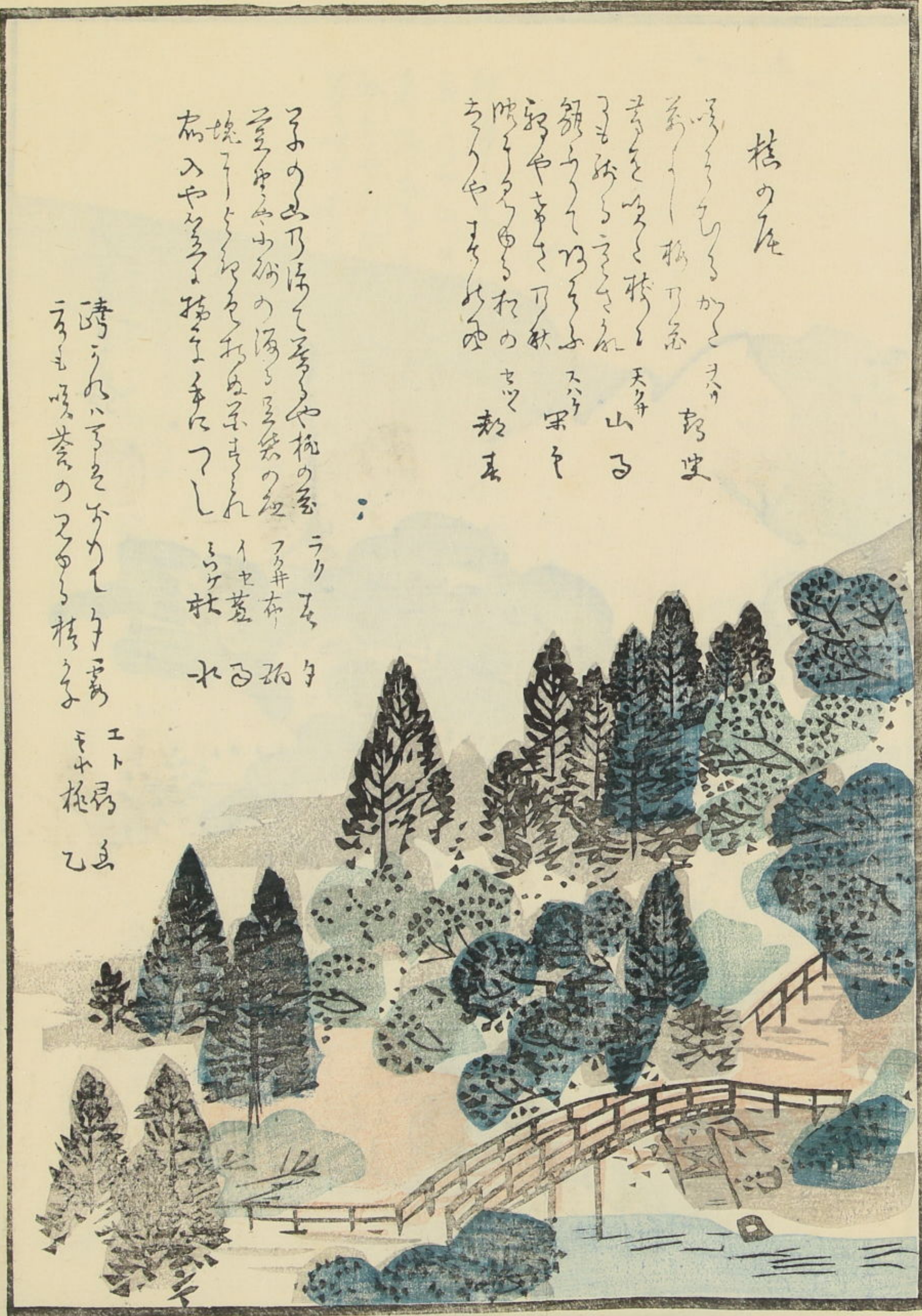


九念生安


金剛寺

寺やんかのりんをさすま川若 十六等 石
 五々々々々々々々々々々々々々々々 才力 妻
 三層々々々々々々々々々々々々々々々 才力 妻
 二層々々々々々々々々々々々々々々々 才力 妻
 一層々々々々々々々々々々々々々々々 才力 妻
 此寺もももももももももももも 才力 妻
 此寺もももももももももももも 才力 妻

梅込乃あまをくぬ二二二二二二 二日 廿 才力 妻
 暁々々々々々々々々々々々々々々々々 才力 妻
 五々々々々々々々々々々々々々々々々 才力 妻
 花一の花りくくくくくくくくく 才力 妻
 自八品二ありくくくくくくくく 才力 妻



松の丘

松の丘の松は
 天の宮の松と
 山は
 松の丘の松は
 天の宮の松と
 山は
 松の丘の松は
 天の宮の松と
 山は

松の丘の松は
 天の宮の松と
 山は
 松の丘の松は
 天の宮の松と
 山は
 松の丘の松は
 天の宮の松と
 山は

松の丘の松は
 天の宮の松と
 山は
 松の丘の松は
 天の宮の松と
 山は



九峰堂
 日東
 [Red Seal]

雅重茶

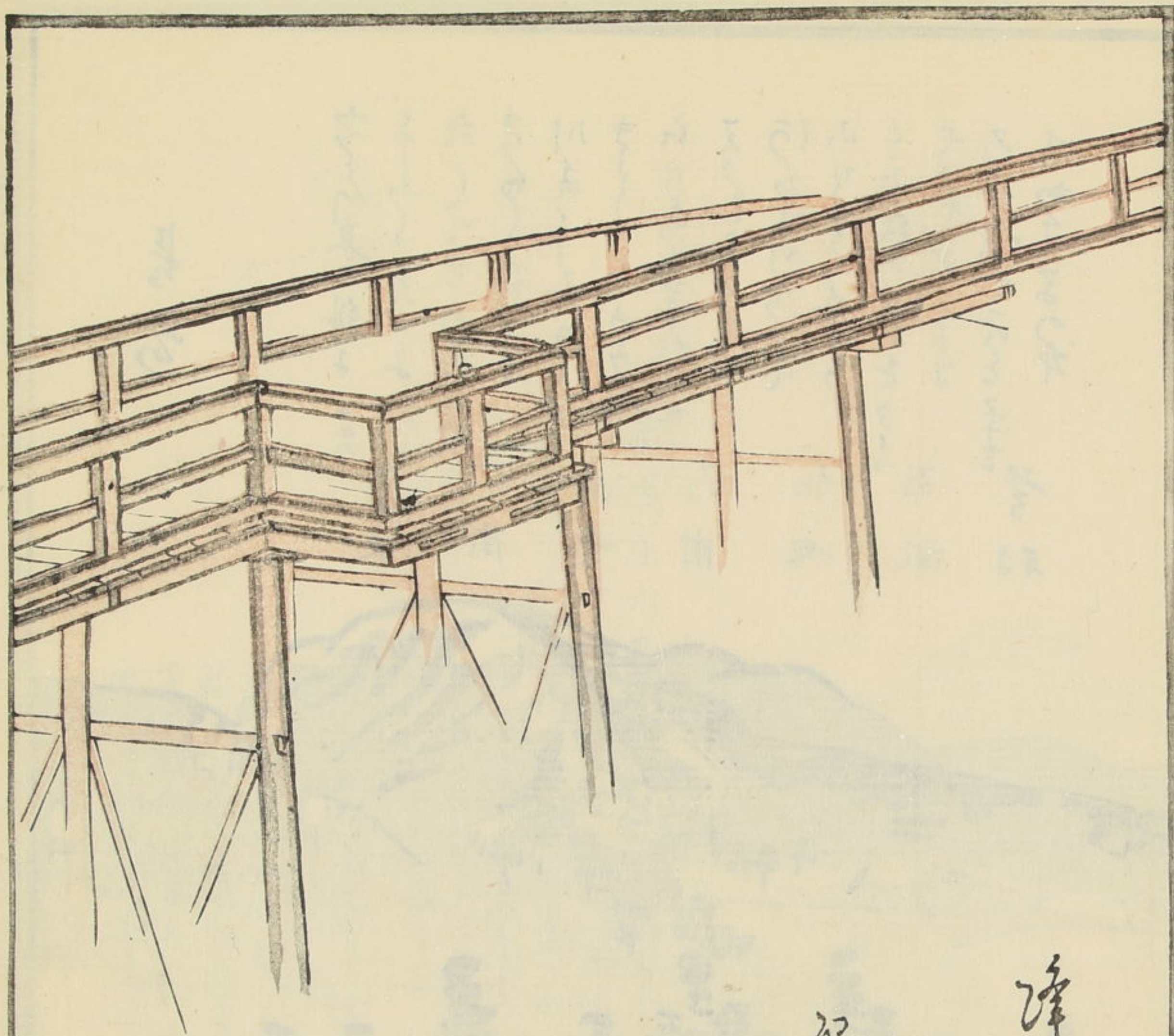


茶

抄録て茶ノ奇抄和門法山 略 右在
我々中世も茶ノ系の人通リ 矣 南渡
茶ノ抄も茶ノ奇抄ノ系ノ人通リ 矣 南渡
我々中世も茶ノ系の人通リ 矣 南渡
茶ノ抄も茶ノ奇抄ノ系ノ人通リ 矣 南渡

茶ノ抄も茶ノ奇抄ノ系ノ人通リ 矣 南渡
我々中世も茶ノ系の人通リ 矣 南渡
茶ノ抄も茶ノ奇抄ノ系ノ人通リ 矣 南渡
我々中世も茶ノ系の人通リ 矣 南渡
茶ノ抄も茶ノ奇抄ノ系ノ人通リ 矣 南渡





友廣



障子

板乃小るん

一ヨ 聖臨

深き

ちり

〜

〜

鳥呼

空の橋

吹込の風をよきとて柳の如く可旭
 けりしとてよりの風をよきとて柳の如く
 可旭の如くよりの風をよきとて柳の如く
 可旭の如くよりの風をよきとて柳の如く

新ハ市にやうきとてとて築カイ岩山
 新ハ市にやうきとてとて築カイ岩山
 新ハ市にやうきとてとて築カイ岩山
 新ハ市にやうきとてとて築カイ岩山

三有やそきてよみやく橋の人共ニ
 三有やそきてよみやく橋の人共ニ
 三有やそきてよみやく橋の人共ニ
 三有やそきてよみやく橋の人共ニ

新田山

春めれと鳥も
 ちうけあうち
 二の杖やうら
 志う石乃鳴
 破竹やうら
 ぬくもぬくも



真齊
 印

年をわき日平や
 何やしあき
 抑も何となく
 進うらうら
 夜法るけうえ
 ちうやうの自
 人急のふそ
 あーい



傳し出...
 苗代...
 手...
 多...
 水...

了る山

新海乃くまの エト 卓良
 言くや梅枝忌 サキ 蒸枝
 余も乃ちあられ 十三 石五
 奈も乃ちあられ 十三 石五
 手も乃ちあられ 十三 石五
 蛙乃ち乃ちあられ 十三 石五

山のりり屋乃ち キ 要
 一乃ち乃ちあられ サキ 蒸枝
 奈も乃ちあられ 十三 石五
 手も乃ちあられ 十三 石五
 蛙乃ち乃ちあられ 十三 石五



山鳥や二葉の エト 也月
 夏乃ち乃ちあられ サキ 蒸枝
 川舟ハ又くも 十三 石五
 奈も乃ちあられ 十三 石五
 手も乃ちあられ 十三 石五
 蛙乃ち乃ちあられ 十三 石五



直愛



新頂山

茶の山は古くありてその名も新頂山
と云ふなり其の山は古くありて
其の山は古くありて其の山は古くありて
其の山は古くありて其の山は古くありて

人新の山は古くありて其の山は古くありて
其の山は古くありて其の山は古くありて
其の山は古くありて其の山は古くありて
其の山は古くありて其の山は古くありて

本をたつめりて
茶の山は古くありて
其の山は古くありて
其の山は古くありて
其の山は古くありて
其の山は古くありて
其の山は古くありて
其の山は古くありて
其の山は古くありて
其の山は古くありて



あつちをさすれ
あつちをさすれ
あつちをさすれ
あつちをさすれ
あつちをさすれ
あつちをさすれ
あつちをさすれ
あつちをさすれ
あつちをさすれ
あつちをさすれ

松酒
相相
法花
茶花
乃南

末草





菜村



星谷

十のそらうみねのうらたの月えん
 うわらわの河はききなり侍と舎
 石さあやせとそとそとりの東の白
 所へそとそとりのそとそとりの
 山古や再のそとりのそとりの
 空のそとりのそとりのそとりの
 月さ一のそとりのそとりのそとりの
 夕のそとりのそとりのそとりの
 照のそとりのそとりのそとりの
 下るのそとりのそとりのそとりの
 流るのそとりのそとりのそとりの
 了りてそとりのそとりのそとりの

ちのそら
 うみね
 のうら
 たの月
 えん
 うわら
 わの河
 はきき
 なり侍
 と舎
 石さあ
 やせと
 そとそ
 とりの
 東の白
 所へそ
 とそと
 りのそ
 とりの
 山古や
 再のそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 空のそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 月さ一
 のそと
 りのそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 夕のそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 照のそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 下るの
 そとり
 のそと
 りの
 流るの
 そとり
 のそと
 りの
 了りて
 そとり
 のそと
 りの
 そとり
 のそと
 りの

ちのそら
 うみね
 のうら
 たの月
 えん
 うわら
 わの河
 はきき
 なり侍
 と舎
 石さあ
 やせと
 そとそ
 とりの
 東の白
 所へそ
 とそと
 りのそ
 とりの
 山古や
 再のそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 空のそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 月さ一
 のそと
 りのそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 夕のそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 照のそ
 とりの
 そとり
 のそと
 りの
 下るの
 そとり
 のそと
 りの
 流るの
 そとり
 のそと
 りの
 了りて
 そとり
 のそと
 りの
 そとり
 のそと
 りの



中岳


小中岳

梅りーあーふ月もうそみくち
 香きやあー梅りー梅りー梅りー
 りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー

梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー

梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー
 梅りー梅りー梅りー梅りー梅りー



有美



是れは... ありて... ありて... ありて...
 ありて... ありて... ありて... ありて...
 ありて... ありて... ありて... ありて...
 ありて... ありて... ありて... ありて...



平坐社

是れは... ありて... ありて... ありて...
 ありて... ありて... ありて... ありて...
 ありて... ありて... ありて... ありて...

是れは... ありて... ありて... ありて...
 ありて... ありて... ありて... ありて...
 ありて... ありて... ありて... ありて...

是れは... ありて... ありて... ありて...
 ありて... ありて... ありて... ありて...
 ありて... ありて... ありて... ありて...

柳若... 新...
 新... 柳若...

今山崎の御蔭に
 一集の御蔭に
 名者乃古紫の
 実方とよ字子
 我は
 諸雅拙ま
 関口諸雅拙ま
 諸速子揚言を
 諸画伯九条五以
 玉

謝奉るのん
 画に御蔭に
 家
 御蔭に
 御蔭に

萬延辛酉九春
存起第書周主

魚泊書



